

コウヤマキのさし木増殖技術について

林業試験場 特用林産部 濱田さつき

〔はじめに〕

コウヤマキの苗木生産は主に実生苗によるが、山出しまでおよそ10年程度かかることから、生産期間の短縮が課題である。また、花木として商品価値の高い形状を持つ苗木が求められている。これらの課題に対し、生産期間がより短く、優良品質を受け継ぐことのできるさし木苗の増殖に着目し、2008年から2012年にかけて行った試験の結果を報告する。

〔材料と方法〕

1. さしつけ用土試験： さしつけ用土に鹿沼土、赤玉土、バーミキュライト、パーライト、日向土、川砂を単独で用いてさし木を行い、6カ月後に生育状況の調査を行った。
2. 灌水方法に関する試験： プール灌水、毎日灌水、底面灌水、pF2.3になったときに灌水を行う乾燥時灌水の4種類の灌水方法でさし木を行い、5カ月後に発根率の調査を行った。
3. 枝齢別試験： さし穂の枝の切り位置を1年枝下部、2年枝上部、2年枝下部、3年枝上部、3年枝下部の5種類に切り分けてさし木を行い、7カ月後に発根率の調査を行った。
4. 薬剤による発根促進試験： インドール酪酸-200ppm、ネオグリーン-100倍、メネデール-100倍、HB101-1,000倍の4種類の薬剤に穂先を24時間浸漬したのちにさし木を行い、7カ月半後に発根率の調査を行った。
5. 発根時期に関する試験： 4月にさし木をおこなった穂木を、5月、7月、9月、11月、3月、7月に掘り取り、発根率の調査を行った。
6. さしつけ時期に関する試験： 2011年5月から2012年5月まで、毎月下旬にさし木を行い、2012年10月に掘り取り、発根率の調査を行った。

〔結果と考察〕

1. さしつけ用土試験（図1-1・1-2）： 発根率は、バーミキュライトと鹿沼土が、最も高くなった。バーミキュライトを用いると、根数が多くなった。
2. 灌水方法に関する試験（図2）： 発根率は、乾燥時灌水で低くなった（ $3 \pm 4.8\%$ ）。その他の試験区では、発根率が平均31~33%であった。水を切らさずに省力的に灌水を行う方法として、プール灌水、底面灌水が活用できると考える。
3. 枝齢別試験（図3）： 今回の試験では、枝齢が高くなるほど、発根率平均値が高くなり、3年枝下で最大（ $78 \pm 16.7\%$ ）となった。3年枝下区のさし穂長平均は 22.9 ± 5.2 cmであったが、この大きさ程度までのさし穂であれば、穂先切り位置の枝齢が高くなるほど、発根率が高くなると予測される。
4. 薬剤による発根促進試験（図4）： 今回の試験では、薬剤処理による発根促進効果はみられなかった。

5. 発根時期に関する試験(図5): 発根がみられたのがさしつけから5カ月目以降であった。15カ月後(7月)には、発根率が50±44.1%となり、さしつけ1年目の最大発根率と比較しても、20%以上の伸びを示した。床替えまでには、さし床での育成期間を15カ月以上取ることが得苗率の向上につながると考える。

6. さしつけ時期に関する試験(図6): さしつけ時期が12月下旬~2月下旬のときに、発根率が最も高くなり、5月下旬~6月下旬のときに、発根率が最も低くなった。

以上の結果より、コウヤマキのさし木苗を育成する際には、バーミキュライト小粒をさし床にし、長さ25cm程度のさし穂を用いて、12月下旬~2月下旬にさし木を行い、育成期間中水切れさせないように灌水を行いながら、15カ月以上さし床で育成させることで、より効率的にさし木苗が得られると考える。

